みんなと倶楽部
My hometown Kaketsuka
MINNATO CLUB 掛塚 ESTD.2016
第23号

P1 1年ぶりに開催された津倉家見学会
P2 DVD上映をお囃子演奏で盛り上げ～掛塚屋台囃子保存会
P3 「掛塚大工・小栗家」を聴講して
P4 ちょっといーけ？ 本町 小栗庄一さん

～歴史の町の保存と活用を！～

1年ぶりに開催された津倉家見学会

例年、10月の第3土曜・日曜日は「掛塚まつり」の開催日。令和3年は、昨年に引き続き中止となってしまいましたが、新型コロナウイルスの感染が収束に向かい「緊急事態宣言」も解除されたため、「旧廻船問屋・津倉家の見学会」と「遠州の小江戸 むかしの写真展」を10月16日(土)・17日(日)に開催しました。

「緊急事態宣言」が解除されたとはいえ、新型コロナウイルス感染症には十分な対策が必要。受付では非接触型体温計で検温し、手や指を消毒した上でチェックシートに名前や連絡先の記入をお願い。グループの人数を少なくし、もちろんマスク着用での見学です。

2日間の来場者は、草地博昭磐田市長を含め約220人。現在は磐田市の所有となっている旧廻船問屋の古民家を、掛塚を元気にするために積極的な活用が必要と手を挙げた「みんなと倶楽部・掛塚」は、「ふじのくに文化財保存・活用推進団体」の認定を受けました。そんな私たちの活動は草地市長からも評価していただき、「例えば、カフェなどとしての利用も考えたらどうか？」などの具体的な提案もいただきました。

静岡県文化財保存協会の人たちは、17日(日)に県内各地から津倉家を訪れてくれました。それは、もちろん、私たち「みんなと倶楽部・掛塚」が旧津倉家住宅の掃除や草取りなどの管理や見学会にとどまらず、かつて掛塚湊として栄えた町の歴史を掘り下げ、地域おこしに活用している活動を正しく評価していただき、「ふじのくに文化財保存・活用推進団体」の認定を受けたためです。

津倉家を見学していただいた後には、掛塚の町歩きもしていただき、「遠州の小江戸」と呼ばれた時代の面影が残る掛塚の魅力を感じていただきました。

掛塚湊から運搬されたのは、天竜川を筏に組まれて流れ下った木材。その木材を角材や板に加工する製材業、製材に欠かせない鋸づくりなどの産業も栄え、船乗りや船大工、良材を加工した大工や建具屋、繁栄の地にはありがちな花街も。掛塚にはまだまだ富の証でもある蔵もたくさん残されています。

「遠州の小江戸」と呼ばれた掛塚の町全体の保存・活用を進めることが、私たち「みんなと倶楽部・掛塚」に課されたテーマ。「ふじのくに文化財保存・活用推進団体」に認定されたのを責任と考え、さらに1歩、また1歩、前へ前へと進みたいと考えています。

「掛塚まつり」が2年続きで中止された中、竜洋西会館では「せめても」の気持ちで「掛塚屋台囃子保存会」によるイベントも開催されました。会場には各年のポスターが貼られ、掛塚9町の提灯と屋台の写真も展示され、プロジェクターでは曳き回される豪華な屋台の動画が流され、県無形民俗文化財に指定されているお囃子の生演奏も披露されました。

「掛塚屋台囃子保存会」も「ふじのくに文化財保存・活用推進団体」の認定を受けた団体。私たち「みんなと倶楽部・掛塚」は「掛塚屋台囃子保存会」とともに、地域の伝統を守り、元気にするための活動を進めて行きます。

来年こそは、貴船神社の例祭「掛塚まつり」を開催できるはず。ともに手を携えて、頑張って行きましょう！

記事：斉藤朋之

● 市長が見学に来られました。

● 町歩き

● 沢山の方にお越しいただきました

● 遠州の小江戸 昔の写真展

ちょっといーけ？

温故知新！ 掛塚を知る「にーさ・ねーさ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組(のりこ&さゆり)がインタビュー。

今回は、本町の小栗庄一さんにお話を聞いてきました。

小栗庄一さん 85歳(本町)

今回は前頁でご紹介した小栗家の十代目、庄一さんにお話を伺いました。大工としては八代目まで続いた小栗家ですが(前頁参照)「ちょっといいけ」では大工の仕事から離れた後のお話を主に伺いました。

ー庄一さんが生まれたのはお父様(国近さん)が津倉材木店で働いていた頃ですか？

そうだよ。津倉での番頭の仕事は原木の査定や取引先への営業(販売)など製材の機械を動かすこと以外のことは何でもやってたんだよ。材木の査定はこの木は何石あってこの値段だからこの山はいくらで買うというふうに木を一本じゃなく山全体を見る。実際の木の管理は山の世話人というのが居て、木を植えて間引き(間伐)をして、枝が伸びると枝下しをやって。二十年ぐらい経つとあとは自然に育つもんだから木の下の草刈りをやってくれる。今は森林組合になっちゃったけど、昔は個人個人でやってたからね。

戦後復員した父に二回ほど東京の取引先の材木屋へ連れて行ってもらって親父の仕事(営業)を間近かで見たことがあったよ。終戦から五年後、三十九歳の時に親父は私たち五人の子供を残して病気で亡くなってしまって、それから母は懸命になって子供らを育て上げてくれたんだ。

ー雑貨屋「小栗商店」、通称(そばや)について・・・お蕎麦屋さんも？

「そばや」は明治時代におせんさん(七代目伝蔵さんの奥様)が始めた雑貨屋でね、ほうきや化粧品などの日用品や、醤油・ソースの量り売り、専売品の煙草や塩、文房具やお菓子なんかを売ってたんだ。「たいやき」「亀焼き」の型や「らくがん」(はくせっこう)の木型も残っているからそういうのもやってた事があるんだと思うけど蕎麦屋をやっていたっていう記録はないんだよ。小栗家八代目の熊太郎が「そばくま」って呼ばれていてね、それは天竜川堤防の大改修以前は天竜川の側(そば)に住んでたからじゃないかと思うんだ。昔は堤防が低くて現在の本町上の坂を一段上がった所が堤防の上で、そこに家があったからね。だから「そばくま」も「そばや」も「そば」は「蕎麦」ではなくて天竜川の「側(そば)」のことだと思っているんだ。

小栗家の子供たちも店番のお手伝いをしていた「そばや」は明治時代に始まり四つの時代をまたぎ、平成元年六月に閉店されました。

ー庄一さんは役場にお勤めだったんですよね？

僕は浜商を卒業してから叔父の勧めで繊維の会社に入ったんだ。織り方ではなくて事務系の仕事で糸勘定をしたりね。本町の芥田さん(織り屋)の所にもしょっちゅう来てこういう風な縦糸で何本、横へ何本仕込んで織ってくださいって糸を持って行ってね。アメリカに輸出するためのブロードの生地は大阪の東洋紡へ納めてたんだよ。そういう仕事を昭和三十年から三十四年までやったけど、その頃は繊維業が右肩下がりだったから繊維の会社を辞めて竜洋町役場にはいって、それから三十四年間勤めたんだ。私が入った時はもう現在の竜洋支所の場所だったけど昭和三十年に町村合併で移転するまで掛塚町役場は貴船神社の入口の所(竜洋会館跡地)にあったんだよ。

ー貴船神社の総代さんについて

僕は貴船神社の氏子総代を十九年間やってきました。その中で二〇一六年には社務所の建て替えがありましたね。(旧社務所：大正十二年に庄一さんの祖父熊太郎さんが建造)

二〇一九年(令和元年)が総代として最後のお祭りとなりましたが、お渡りが神社を出発してじきに足がつってしまって・・・本町上から裏通りに入りそのまま帰ることになってしまったから家から先(御仮屋宮)には行ってないんだ。(笑)

お渡りは距離が長いから歩いていると草履が脱げちゃうから、いつもかかとに紐を付けて歩いてたんだよ。

掛塚祭りでの家族写真(昭和23年頃)
ご両親・御兄弟(5人)・お婆様
叔母様(後列)、庄一さんは二列目最右

皇紀2600年記念の時の屋台の写真。
国近さん 前2列目一番右
庄一さん 屋台上右から三番目白前掛け

小栗家には当時の宮大工の仕事や掛塚の生活が窺える資料や雑貨が大切に保管されていました。長期にわたり氏子総代や自治会長を務め地域の為に尽くされてきた庄一さんはとても几帳面で真面目な方でした。

【おまけ情報】一九六四年の東京オリンピックの時には「とうきょう64」という煙草20本入り100円で販売されました。どなたか覚えていますか？(笑)

「取材・記事 のりこ&さゆり」

● 会　長　池田藤平
● 事務局　名倉慎一郎、大沢利行
● 編　集　霜田茂巳、山内紀子
鈴木小百合

お問い合せ
ご興味のある方は
下記までご連絡ください！
☎0538-66-4775 (名倉)

DVD上映をお囃子演奏で盛り上げ

～竜洋西会館で掛塚屋台囃子保存会～

毎年恒例となった旧津倉家住宅の見学会は、掛塚祭りの日程にあわせて今年も開催されましたが、今年は、竜洋西会館をサブ会場として掛塚まつりのＤＶＤ上映会が企画されました。共催団体となった「掛塚屋台囃子保存会」も、西会館をお囃子の演奏で盛り上げました。

竜洋西会館は今年三月に落成し、私たちの活動拠点として活用させてもらっていますが、当日は午前九時から保存会本部役員による「掛塚祭屋台囃子」の演奏を行い、磐田市長をはじめ、市内外から百名ほどが来場してくれました。県内研修として掛塚を訪れた「静岡県文化財保存協会」の方々も、祭りの映像を鑑賞しながら生演奏を聴いて、掛塚まつりの雰囲気をじっくりと味わっていました。

この二年間、コロナ禍の中で各地の祭りが中止になり、伝統文化の継承が危ぶまれていますが、今回の西会館での演奏では、子どもたちも町内の若者と一緒になって参加してくれ、お囃子の伝承に少しでも役立てたかなと思います。また、このような若い世代がお囃子を楽しんでくれている姿を見ると、「やっぱり掛塚はいいな」と感じます。今後、各支部ごとに計画を立て、楽しみながらお囃子の練習に励んでいきたいと思っています。

記事　松山　真

「掛塚大工・小栗家」を聴講して

11月20日（土）　at.竜洋西会館

私が住む砂町の屋台の彫りは鈴木傳十郎の作（明治時代）が大半を占めており、傳十郎の実家の子孫にあたる小栗宏之さんの講話は大変興味深いものでした。小栗さんの話によれば、傳十郎は江戸末期、新町の屋台建造に携わった立川和四郎の彫りから技術を学び、この技が本町と砂町の屋台にも受け継がれているそうです。

講話の中では触れられませんでしたが、本町屋台の欄間の彫りは花の四君子であり、竹、菊、梅の３枚は立川専四郎冨種の作である一方、残りの１枚は傳十郎が見事な蘭の彫りを手掛けています。これは、傳十郎が冨種に勝るとも劣らない腕の持ち主であることを証明したものであるため、ご覧になったことがない方は是非、冨種の彫りと見比べて頂ければと思います。

また、傳十郎は貴船神社本殿と拝殿の棟梁を務めたことでも有名ですが、宮大工として稼いだお金の多くは山の購入に充て、植林にも力を入れていたことには驚きました。これは、一〇〇年後の貴船神社改修を考えてのことで、小栗さんの「令和となった現在、必要となればこの材木を用意する準備がある」とのお話には大変感銘を受けました。

このように、宮大工は自身が建てた神社仏閣の後世を考え、未来に投資していたため、日々の生活費は商店を営むなどして賄っていたそうです。小栗家は「五升屋・そばや」等、時代ごとに商店としての屋号があり、私がイメージしていた宮大工の世界とは全く異なるものでしたが、先祖の意思を受け継ぐ小栗さんの熱い想いに胸を打たれるとともに、私たち地域住民が一丸となって歴史と文化を守っていかなければならないと強く感じました。

今回の講話では、砂町の屋台彫刻の下絵や元禄年間の資料など、当時の貴重な資料も展示されましたが、これらを保管し活用する場所も課題となっています。是非とも念願である屋台会館を実現し、郷土の誇りである絢爛豪華な屋台とともに、古文書や古い写真等の保管・展示をしていければと思います。

掛塚は天竜川上流で採れる良質な木材を江戸や大阪に船で運んで栄えた湊町です。かつてはいくつもの廻船問屋が軒を連ね、遠州の小江戸と言われるほど賑わっていましたが、過疎化等により人口は減少の一途を辿っています。これに伴い、古い建物は取り壊され、街並みは一変して寂しい限りですが、私は「みんなと倶楽部・掛塚」の活動を通じ、今ある資源を有効活用しながら、少しでも活気を取り戻していければと思います。そのためには、みんなで知恵を出し合い、行動に移していくことが重要だと考えますので、一人でも多くの方が「みんなと倶楽部・掛塚」に興味をもって、ご参加いただければ幸いです。

記事　砂町　池田大輔